

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	全職員が運営理念を述べる事が出来、理念に基づいてケアを行うように取り組んでいます。	
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	常に理念を念頭におき、管理者を中心に話し合い、実践に向けて日々、取り組んでいます。	○ 玄関にまとめたものを掲げ、日常的に話をするとともにそれを常に心におき業務にあたっています。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	地域の方には開設時、ホームの説明会を行い町内会に加入する等、ホームの役割について理解を促す努力をしています。家族に対しては、契約時の文書にまとめ、説明をし、渡しております。	○ 利用案内時に説明し、玄関に掲げる事により、入居者、家族等、皆様に明示しています。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日常の挨拶や草刈りの時等、隣近所の方々とは会話をし、親しくお付き合いができるようにしています。	○ 地域行事に参加し、更なる理解を得られるよう取り組んでいます。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入し、地域の行事に入居者と共に積極的に参加し交流するよう努めています。	○ 地域行事への参加、中学生ボランティアや町内婦人部のボランティアの受け入れなどさせて頂いています。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議にて町内会長さんや地域包括支援センターの方に、お話を伺いながら取り組んでいます。地域の資源回収にも協力しています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員が自己評価の項目を分担し、各自が記入した評価を話し合い改善し、サービス向上に向け取り組んでいます。		
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	家族、町内会長さんや地域包括支援センターの方、入居者さん等が出席し、会議を開催しサービスの実際や評価を報告しています。その際、出席者の方達の意見も伺い、今後のサービスに生かせるようにしています。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	役所に出向いた時は担当者に事業所の近況報告や担当者より指導を得る等、サービス向上に取り組んでいます。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者や職員は機会があれば、制度の理解と活用が出来るように研修に参加し、支援していきたい。	○	研修への積極的な参加を支援し、必要な人には活用できるように支援していきたいと思います。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	虐待は決して起きてはならない事として、虐待の範疇や相互の心理状態について話し合いをしています。日々の業務において、声掛け等でスピーチロックにならぬよう努めています。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等にゆっくり時間を設け、よく説明し、不安や疑問点を残さないように理解・納得を得られるように努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者と職員はコミュニケーション良好の様態を、利用者の意見や不満、苦情について各担当職員が、日頃の介護の中で気持ちを聞くように努めています。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>家族の来訪時、毎日の暮らしぶり等、情報提供し、金銭管理の報告と確認をさせていただいております。利用者の様子が解る写真入りのポスターを作成し、ダイルムや食堂等に掲示しています。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族の方が訪問された際等、気軽に意見や提案を出せる雰囲気です。玄関に意見箱を設置し、家族や来訪者が意見、苦情等を出せるようにしています。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>カンファレンスや連絡ノートで改善に向けての提案を話し合います。会議の席で発信できないような方や意見も日頃から話し合える環境を作っています。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>夜勤専門の職員やパート職員の採用で必要な時間帯に職員を確保する事が出来ています。夜間の急変時には速やかに、駆け付けられる職員がいます。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>利用者のダメージをなるべく少なくするため、新しい職員と馴染みの職員を組み合わせ、勤務体制を作っています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>職員評価制度の導入でそれぞれの段階に応じた研修に参加できるよう取り組んでいます。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>市内グループホーム代表者の集まりに参加し、交流の機会があります。また、相互施設の訪問等もっており、サービス向上につながる交流、研修を行っています。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>仕事上の悩みやストレスは管理者との話し合いで解決を図っています。お互いに話しやすい環境を作り、なるべく早い解決、解消を目指すようにしています。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>体調管理やリフレッシュできるよう事前の休暇の申し出にほぼ応える形で勤務表を作成しています。また、研修会への参加など職員の向上心への働き掛けやそれを維持していけるよう努めています。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>管理者や職員が直接、話して何を知りたいか、どのような事で困っているのかを把握し、受け止めるよう努めています。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>家族の方には家族と一緒に利用者を支えていく気持ちを伝え、ホームの現状を知っていただく中でどのような事で困っているのか、何を知りたいか、今後どうしていきたいのかを把握し、受け止めるよう努めています。</p>	○	<p>家族が来訪した際に、声掛けし、意見や要望を聞くように取り組んでいます。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時には、本人と家族が今何を困って、何のサービスが必要かを見極めサービスの利用について共に考えていくようにしています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者と家族がホームを見学し、職員と話し合いを重ねながら、本人了解の下でサービスを開始しています。ホームの雰囲気に馴染めるよう職員はやさしい気持ちで接し丁寧な支援を心がけています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は常に利用者と会話を多く持つよう心掛け、寄り添い話を聴きながら行動を共にしています。また、楽しみを共有しながら暮らしの中で利用者から学ぶよう職員は務めています。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員は家族を通して情報を収集し、日々の介護に当たり共に本人を支えていく関係を持てるように心を開いて受け入れるように努めています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族が来訪された時には本人の近況を報告し、家族が関わっていない時の事も解るように情報提供しています。また、家族からは利用者の若い時や活躍している時代の話聞き、日常の介護に活かせるようにしています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人が大切にしてきた家族や友人との触れ合いが出来るように、外出や面会を受け入れ、本人との関係が途切れないように支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	他者と上手にコミュニケーションが取れない利用者に対しては職員が間に入り、共通の趣味や昔話等を通し、関わりが持てるよう努めています。また、座席位置の工夫等を行っています。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスが終了しても家族とのお付き合いを大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所前後の家族も含めた面接時点から本人の思いや意向を汲み取るよう努め、日々の生活において日常会話や行動から何を考え、求め、望んでいるか等、把握に努めています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時に生活歴を確認し、利用者からの聞き取りが難しい場合は、家族に聞いて把握に努めています。入所後も利用者や家族から得た情報は職員間に共有するため、個別記録に随時記入し、共有できるよう周知しています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	職員は常に情報を共有し、一人ひとりが健康で安全に安心して毎日が送れるように観察し、報告し合う事を心掛けて介護に努めています。	○	毎日の申し送りや連絡ノートを用いて日々の情報、状況把握に努めています。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護支援専門員、看護師を中心に職員で意見を出し合い、家族や関係者の要望にも配慮しながら、介護計画を作成しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	常に現状に即した介護計画であるかを考えるように努め、対応できない変化が生じた時には介護支援専門員、看護師の適切な判断の基に家族や関係者との話し合い、新たな計画を作成しています。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録は利用者の言動、体調、活動、家族との関係などを相互的に記録されています。記録者も介護、看護、計画作成と皆で記入し情報の共有に努めています。介護計画見直しの際には参考となっております。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族の要望に応じ、個別の支援をしています。(通院介助等、可能な限り支援しています。)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	年1回、中学生の体験見学実習の受け入れをしています。又、町内会婦人部によるお茶会を実施してもらい、利用者さんに喜んでいただいています。町内の方にご協力頂き、防災訓練等を行い地域に根付いたホームになりたいと思っています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	近隣の老人施設や病院、居宅事業所のサービス利用が出来るように支援をしています。市民講座の中でのグループホーム紹介のPRIに参加し、他施設の職員との交流も図っています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて、地域包括支援センターと協働して色々な制度の活用等が出来るようにしたいと思っています。	○	今後も町内会役員、婦人部、地域包括支援センターの方を含めて、地域運営推進会議を開催していきたいと思います。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	受診時、本人及び家族の希望を考慮し、かかりつけ医の受診に配慮しています。職員や家族の付き添いにて適切な医療を受けられるよう、支援しています。		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	市立病院や近隣の医療機関により診断を受け、指示や助言また待ち時間の配慮をしていただけるようになっていきます。	○	利用者の身体状況を踏まえ、異常が見受けられる場合には、家族へ専門医の受診を促し、利用者が治療を受けられる様に今後も支援したい。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	当グループホームは看護職員を確保しています、毎日のバイタルチェックにより健康管理をし、疾病の医療管理を行って利用者の受診を支援しています。		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	日頃より医療機関との連絡を密にしており入院時は利用者が安心して治療を受け事が出来るように、又、早期退院に向けて、関係者との情報交換を行っています。		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	家族や医療機関と連携を取り、重度化や終末期に向けての方針を共有出来るように繰り返し話し合っています。		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	今後の変化に備えて準備をしています。グループホームとして対応できない状態については、かかりつけ医と相談し、利用者にとって最善と思われる場所を家族と共に考えていきます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	本人や家族に関わる関係者には介護添書を作成し、情報提供を行っています。住み替えによるダメージを最小限に抑えるよう支援しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	一人ひとりの人格を尊重した介護を心掛け礼節をわきまえた言葉掛けをし、丁寧に優しく安心して生活できるように支援しています。個人情報の取り扱いには十分注意を行っています。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者の思いや気持ちを表出できる関係を築き、自己決定が出来るように解りやすく説明を行うようにしています。利用者が納得して生活でき、笑顔のある毎日を送る事が出来るように支援しています。	○	個々に応じた対応をし、傾聴を心掛けています。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個人のペースを大切に、その日その日を本人の希望に添って過ごせるように支援しています。	○	その人らしい暮らしを心掛けています。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	季節やその場にあったその人らしい服装が出来るように本人と相談して選ぶようにしています。本人の希望によって理・美容室への外出を支援しています。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	楽しみの中での一番の食事については、当グループホームが力を入れている業務の一つです。季節感のある栄養バランスを考え、又、利用者の希望に添える食事が提供できるようにしています。又、個人の力に応じたお手伝いをさせていただいています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	希望される方が、入居されている時は煙草も他入居者の迷惑にならぬように配慮して、本人と相談のうえ、場所、時間を決めて楽しんでいただいています。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、なるべく失敗を少なくし、不安や羞恥心、プライバシーに配慮し、トイレでの排泄が続けられるように支援しています。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	健康状態によって、入浴を楽しんでいただいています。個人の好みでお湯の温度や時間を配慮して、入浴が楽しめるように支援しています。	○	体調が悪いときは、シャワー浴や清拭にしています。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	会話やレクリエーション活動で、日中の居眠りを減らし、夜間に安眠できるように支援しています。不眠を訴える方には足浴を行ったり、温かい飲み物を提供しています。	○	睡眠パターンを把握し、適度な運動、レクリエーション等で安眠に、つなげるようにしています。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個人の得意分野での出番づくりを支援しています。一緒に家事等をした時は、役立っていることに感謝やお礼の気持ちを伝え、やり遂げた達成感や、満足感をもっていただけるよう支援しています。気分転換に、理・美容室への外出や外食等も変化のない毎日にならないように支援しています。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの希望や力量に応じて、支援しています。管理できない額については、金庫に預かっております。	○	家族より預かったお金は、普段ホームで、預かり(金庫内)、個別に金銭出納帳をつけ、必要に応じて出し入れしています。家族の来訪時、見て頂き、チェックを頂いています。
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の希望に添って、買い物、散歩、理・美容室への外出を支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	本人や家族の希望による外出(お見舞い、お墓参り等)が出来るように支援しています。又、日帰り温泉や年に1回、温泉宿泊旅行を実施しています。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	本人の希望により、手紙を出したり、家族からの電話を取り次いだりは日常的に支援しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、知人、友人の訪問はいつでも受け入れています。又、居心地よく過ごしていただけるよう職員全員、心掛けています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束のないケアに努め、常に見守り、声掛けを行っています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関は日中鍵を掛けていません。職員で連携して見守りを行い、SOSネットワークを活用できるように個人の服装や特徴を把握しています。		
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は利用者のプライバシーに配慮し、常に所在や様子を把握し、安全に生活できる場の提供ができるように支援しています。夜勤帯は、時間毎の見守りをし、少しの物音でも聞き逃さず、対応できるよう努めています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物品については、明確に保管場所を取り決めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	職員は利用者一人ひとりの状態から予測される事故について検討し、話し合い、未然に事故防止できるよう取り組んでいます。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	事故発生時のマニュアルが作成しており、マニュアルにそって行っています。職員の緊急連絡網も作成して、利用者の急変、事故発生時の連絡等の確認を職員間で周知、徹底しています。	○	事故があった際には、事故報告書を作成し、事故の原因、問題点、再発防止策の話し合いをしています。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練を実施し、日頃より、近隣住民に声を掛けており、協力を得られるような信頼関係ができています。また、運営推進会議の中でも協力が得られるようお願いしています。	○	消防の協力により、避難経路の確認、消火器の使い方の訓練を利用者、地域代表、包括支援センター職員の参加により実施しました。今後も定期的に避難訓練を行い、スムーズに避難できるようにしていきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	一人ひとりに起こり得るリスクについては家族に説明し、身体拘束をせず、穏やかな暮らしを大切にしたい毎日を支援するよう話し合っています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日の健康チェックや介護の中で体調の変化や異変を早期に発見し報告し合い、職員間で情報を共有し、速やかに対応しています。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は服薬の目的、用法、用量、副作用等を良く理解して服薬の支援をしています。誤薬の無いように服薬迄に3回のチェックを行っています。	○	手渡しし、正しく服用できない利用者には職員が介助し服用して頂いています。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘については水分摂取量や食事内容、運動等、一人ひとりに合った方法で対応しています。頑固な便秘についてはかかりつけ医と相談して、指示のもと下剤、浣腸の処方を受けています。	○	牛乳、ヨーグルトは毎日、摂取しており、便秘がちな時は、食物繊維や海藻類を意識していただいています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の歯磨き、うがいをしています。一人ひとりの力に応じて声掛け、見守り、介助を支援し、義歯の消毒についても支援しています。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスや水分摂取量を把握し、利用者の状態に合わせバランスの良い食事を提供しています。体重増加傾向にある人や糖尿病の方にはカロリー摂取量に配慮し、一人ひとりの状態にあった支援をしています。時々、外食の楽しみを交えています。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザや肺炎に対しては毎年、ワクチン接種を実施し、経口感染による感染症の防止には、食事、おやつ前の手洗い消毒の実施、外出から帰った時の手洗いうがいの実施に努めています。感染予防マニュアルを職員それぞれが熟読し、予防に努めています。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	新鮮な食材を使用し、賞味期限のチェックをしています。又、布巾、調理器具はその都度、除菌を行っています。週1回、冷蔵庫の掃除を行っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	庭先や玄関には草花を植え、庭木の手入れも行うことによって、周囲の住宅との調和がとれています。表れも新しくして、親しみやすくしました。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースは常に清潔が保たれ、明るい雰囲気の中で過ごせるように工夫しています。デイルームには一人ひとりがゆっくりできるよう、ソファがあり、食堂には鉢植えの花が常に咲いており、利用者一人ひとりの自分の居場所があります。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>気の合った利用者同士が自由に会話を楽しんだり、テレビを観たりして過ごしています。室内犬がいる事で犬を中心に会話が弾んだり、笑顔も多く見られ、家庭的な雰囲気づくりとなっています。</p>		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>個人の居室は入居時に家族と相談し、馴染みの家具や仏壇を置き、好みに合わせて配置しており、安心して過ごせる自分の部屋になっています。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>各室内に温度計を設置し、入居者の意見を聞きながら適切に行っています。利用者がいつも過ごすデイルームの換気は適時、行っています。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。</p>	<p>安全に配慮し、手すりや滑り止め等、状況に合わせて使用できるようにしています。階段は吹き抜けになっている為、転落防止の工夫としてネットを張っています。また、調理では体に合わせ、調理に参加できるようキッチン内にテーブルと椅子を設置しています。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>トイレの場所が分からない利用者の為に解りやすいよう、視覚的に廊下にテープを張る工夫をしています。</p>		
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>入居者と共に園芸や家庭菜園など外での活動にも取り組んでいます。天気の良い日にはベンチやテーブルを中庭に出し、日光浴をしつつ、お茶やおやつを楽しんだり、サクラんボ狩りを楽しんだりしています。</p>		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある <input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく <input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている <input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・毎日の食事を大切に考え、楽しみにして食べる事が出来る。また、個人のADLを配慮し、食材に工夫をしている。
- ・感染予防に対する衛生面での配慮がされている。
- ・介護者は利用者の気持ちに寄り添う気持ちで接するようにしているので、職員間の情報の共有が出来ている。(カンファレンス、連絡ノート等による)
- ・看護師が確保されている為、医療機関への受診や薬剤管理がきちんとされ、急変時の対応が速やかである。